

荒川を考える葛飾区民会議

●開催日

平成23年1月26日（水）
午後6時30分から午後8時30分

●開催場所

ウィメンズパル4階 第1研修室

●出席者

16名（全構成員：22名）

●主な議題

- ・第5回議事概要の承認
- ・地区別計画の検討
- ・第7期区民会議の活動をふりかえって
- ・第8期区民会議の主な討議テーマについて
- ・第32回荒川の将来を考える協議会について
- ・第5、6回荒川市民会議代表者会議報告
- ・情報提供

承認

第5回葛飾区民会議の議事概要（案）が承認されました。

報告

荒川下流河川事務所より、
第32回荒川の将来を考える協議会について、報告がありました。



討 議

1) 地区別計画の検討（荒川四ツ木地区分科会報告）

町田委員から、荒川四ツ木地区分科会について報告があり、地区別計画について検討されました。

- 分科会メンバーは、関口、岡戸、浅岡、江川各委員と私の5名で、2回開催した。荒川四ツ木地区分科会の計画作成にあたっては、現状の荒川河川敷や四ツ木地区の課題と問題点を抽出し、緊急時の避難通路の確保・拡張やイベントの開催、川と街、人と調和した荒川河川敷をつくるため、行政と連携して区民が主体的に動く体制づくりなどの意見が出された。それを、コンセプト、基本方針、土地利用計画、維持管理の項目にまとめた。
- ・キャッチフレーズを「『川と街と人を結びつけ、遊ぶ、楽しむ、集う 川づくり』を目指すために、葛飾四ツ木地区に、名所を創ること」「『荒川河川敷と連動した街づくり・地域づくり』を行う」とし、川と街と人を結び付ける川づくりを目指したい。荒川へ来やすくし、集い、学ぶ、遊ぶ、管理するという四つの項目に分けて詳細をつくり、駅からのアクセスや駐車場、駐輪場の整備強化、桜堤等の整備による名所づくりやスポーツ振興と商店街振興を図りたい。
 - ・水辺公園の移転や改築を行う。あらかわ水辺公園をリニューアルして、自然公園と河川学習教室（わくチャレ教室）の設置、河川敷管理団体の組織化によるクリーンエイド開催回数の増加と、水辺公園の管理等を行いたい。
 - ・土地利用計画については、四ツ木地区に桜を植栽し名所にしていきたい。他市区の桜オーナー制度を参考として取り組みたい。また、ヒヌマイトトンボの生息地を拡大または移転して、四ツ木駅近くに集積する。あらかわ水辺公園＋河川学習教室については行政から難しいという意見もあったが、公園の充実、河川の学習という意味からも将来的に考えていきたい。
 - ・荒川に来やすく、管理するという点では、京成四ツ木駅と木根川周辺のアプローチを改善し、避難通路を兼ねた新しい橋を設置する。現在の橋幅を広げ、スロープの傾斜改善、エスカレーターの設置、駐車、駐輪場整備を行う。河川敷の維持管理については、国土交通省、葛飾区、区民と協力関係を持って行っていきたい。
 - ・商店街と連携を取り、年間活用スケジュールを作成してイベント等を開催する。そのために地区の中に実行委員会を設置し、小中学校や葛飾区、ボランティア、町内会が連携して進めたい。支援組織としてNPO法人などを組織することも必要だろう。希望としては四ツ木地区河川敷に河川敷学習棟のようなものを設置していただき、そこで各種イベントや学習教室の管理運営ができればと考えている。将来的には、荒川下流河川事務所の下に流域市区のセンターがそれぞれできると、行動を活動化しやすいのではないかと。
 - ・第2回荒川を考える分科会では、河川敷のアプローチを強化する要望については、具体的な事例や数値的な裏付けが必要と考えている。河川敷に学習教室や管理棟を設置するのは難しいが、市民活動をしながら実績を残した中で、関係機関と協議しながら検討していきたい。四ツ木地区の商店街は非常に陳腐化しており、厳しい状態である。次代の四ツ木地区を担うためには、学校や小中学生を巻き込んで活動することも必要。桜堤の整備事例は多いため、実現の可能性は高いと思われる。

<主な質問・意見等>（○：質問・意見、●：質問に対する回答）

○中川に橋を架けることは1回目から主張しているがいまだに実現しない。今の状態では、平井から荒川に避難することができない。

○近くの老人ホームの人の話では、実際にはスロープがあつて登れるが、行かない。

- 自転車か人や車いすなどが通れる程度の橋がほしい。水門の橋は災害時でも通さないし、老人や子どもには無理だと思う。
- ほしい、やってくれだけでは進まない。四ツ木地区にどれだけの人がいて、緊急時にどれだけの人がそちらに行けるか、幅はどうなのかといったことを調べて提案していかないと実現は難しいだろう。
- 行政だけでやると予算の都合でできないが、区民が要望しているとなれば話がうまくいくのではないかと期待した。区民の後押しが必要だろう。
- 区民も科学的、数値的なバックボーンを持ってアプローチをしなければいけない。ただ言うだけでなく、そういった活動も必要ではないか。
- 中川の管理権はどこか。
- 東京都である。
- そこにも問題がある。荒川を考える会は国土交通省と葛飾区のため、行政環境が違うのではないか。
- 橋を架けるのは区ではないか。
- 中川と荒川の水門の付近は非常に危険である。この会で、将来的にどういうふうに取り上げるかが問題である。
- ただの橋ではなく、屋根付きの橋にすればいい。
- 屋根を付ける前に橋だろう。
- この話は、町会がバックボーンでないとだめである。四ツ木全体の町会長を囲んで一緒にやらせていただいて、町会長から区に、区から東京都にお願いしなければ、東京都は動かない。国はすぐに動いてくれるが、東京都は偉いところで動かない。
- 組織的な対応が必要で、次の段階でどう実行レベルにするかが、次の分科会の課題である。
- 夢を語るのもいいが、現実にはここは避難地になっている。西新小岩と小岩、松島から避難してくると予想されるし、墨田区からも来ると思われるが、ものすごく狭いスペースである。先般の国政調査の結果で人数が出るという回答を得たが、避難地として今のままでいいのだろうか。堀切と小菅はスペースがたくさんあるが、ここは草が生え、狭くて大変である。避難地の問題も考えなければいけない。葛飾区の中には、綾瀬川と荒川の間には人が渡れる橋が11本あるが、中川にはない。平井の水門は東京都でつくったもので、現状は渡れないが、難しい問題ではない気がする。そのためには、狭さや災害時の避難人数の予測を出さなければならないだろう。協働というかたちで、堀切も四ツ木も小菅も「協働」がテーマになっている。いま、何を業務としてやっており、何を委託業務をしているか、われわれに何をできるかを整理していかないと、組織づくりや組織維持が大変になる。自然地の管理は、継続性がないため大変である。
- 四ツ木地区は組織の部分からつくっていかないといけない。
- 町田委員が分科会で提案しているのだから、分科会ではそういう問題は当然想定しているだろう。河川敷が避難場所となった場合スペースがないことは、全体の防災計画の中でも問題だろう。河川敷ばかりでなく、避難場所の問題にまで波及してくる。
- 発表では子どもや学生などが遊ぶ場所については触れているが、高齢者については全然出ていない。四ツ木地区は住民の半分近くが高齢者だが、そういった高齢者も河川敷に出たいと思っている。高速道路の下は大きな屋根があるのと同じで、そこにエレベーターを付けたらいいのではないか。
- それは難しいという話だった。
- 前回は全体を提案したが、今回は皆さんの意見もあり、もう少し絞って分科会で話し合ったらどうかというので今回開催した。何が目的かと言えば、国土交通省がつくった計画に対して、次は地区計画をつくることになる。そのときに、四ツ木地区はこういうものがあるということを入れていただければいいというのが狙いで、四ツ木地区だけでない。葛飾区の地区計画にどう反映され、数値的なバックボーンを持って行政にお願いするかが次の課題だと思っている。
- 小菅と堀切は自然地が少なく、四ツ木地区に自然地が多い。現在は自然地を保護使用とい

うことで、木工沈床やアシの工事を行っているが、あまり整備されてしまうと自然地がなくなってしまう。堀切と小菅を先にしてしまったため、四ツ木に自然地が集まってしまっている。それをどうバランスを取るかというのは難しい。

- 河川敷と街を連動する空中道路を。いままで四ツ木地区はちっとも発展していないし寂れているのだから、こういうときに金をかけなければいけない。
- そこまで議論するなら、荒川を考える会で検討するのか、この問題はまちづくりも中に入れないと何もできない。
- 先ほど言ったように、結果として四ツ木地区を題材としてこういうことがある、こういうコンセプトがあるということだ。地区計画をどうつくるかの中に、葛飾区にそういうものを入れてもらいたい。桜堤等の整備などをするなど話が広がっていけば、行政も一体になってできるのではないか。
- 少しでも前に進むことができるよう、行政からもよろしくお願ひしたい。
- いろいろ意見をいただいたが、大きい方向性としては維持管理なども含めて一緒に盛り上げていこうということだと思っている。ただ、実際の整備などになると国土交通省からも話があったと思うが、いろいろ物理的な障害がある。葛飾区の場合は、綾瀬川、中川が並行河川になっているため、ここをどういうふうにするかが一番の課題である。
- ・避難橋については、最低限必要なものを勘案して防災課として計画を立て、付けてきている。これをさらにやってくればそれなりの位置づけが必要になってくる。新小岩についても、治水系で始まっているが、地域の町会長などが入って、一体的なまちづくりの検討を地域の方が主催で行ったりしているので、そういうところとの連携も考えられるだろう。今回いただいたものを、来期の地区計画の仕組みづくりなど、いろいろなかたちで連動させていきたい。

2) 第7期区民会議の活動をふりかえって

各委員より、第7期区民会議の活動のふりかえりと、第8期への申し送り事項について討議されました。

<主な質問・意見等> (○：質問・意見、●：質問に対する回答)

- 7期の討議テーマをつくっていたが、かなり実現できていない。来期もこの中のことをやるかどうか、あるいは来期の方にアンケートを取っていただくかもしれない。この中でかなり話し合ったのは避難時の問題点である。
- 「協働」という言葉が計画書でたくさん出てくる。協働について何ができるのか、字は簡単だが、やっていくのは大変だと思う。わずかなスペースでいいが、試行的にやっていたらと思う。
- その一つが芝焼きではないか。2月5日が第3回目だが、それを広げて観光的なことになりたい。
- 協働になると、われわれがやらなければいけない。
- もちろん、やっていただかなければならない。
- 私たちは消防訓練のようなものを合わせてやっていただくため、地元の方も参加していただくことを前提にいろいろな取り組みをしてもらっている。そこから何をやるのかというところを議論できればと思う。以前も話したことがあるかもしれないが、葛飾区の公園などは拠点みたいなかたちで、区民の方に清掃を手伝っていただいているところもある。そういうことも考えればいろいろな仕組みづくりができるかもしれない。やってもらうばかりでなく、一緒に何ができるか。区から民間への委託ではなく、仕組みをつくってやることで、区としてもいいことがあるのかもしれない。一緒に何ができるのかを考えていくことは非常にいいと思う。
- いままでやってきた中で一番疑問なのは、具体的に何がどうなったかの説明はあったが、その次の今後10年の中で、どういうものがどういうふうに見えるのかというスケジュール

が見えてこない。地区計画や荒川総合計画 2010 も、「こういうことをやりましょう」というだけで、具体的なことが見えてこない。決まらないのはなぜなのか。

- この会は意見を出すだけで、国がいずれ、「これはいいな」と思ってやっていただく。意見はいくらでも出してもらい、いいと思えば国がやってくれる。それが 14 年続いている。
- 具体的な話としては、将来像計画の中であらかわ水辺公園の整備や堀切水辺公園の整備を位置づけているため、公園整備みたいなどころではある程度実現している。ただ、現在出ているものは、必要性を含めての検討になってくるため、非常に時間がかかる取り組みになっており、いつまでにやるという結論は出しづらい。以前は公園整備などが目標だったため、区がある程度投入していけば実現できたが、葛飾区はある程度整備が終わっている。さらにどういうところを充実していくかという面で、お金がかからない話は進んでいけても、ある程度の規模になると難しい。ただ、なるべく皆さんの意見を反映した計画をできれば来期中で作成し、それを目指して一緒に動くという合意が取れるかたちにしたい。
- 全体のほうがいいのか、次回の 10 年は避難や防災に絞って、具体的な計画をつくっていったほうがいいのか。委員として皆さんのストレスは、言い続けることで一つでも実現してもらおうほうがいいのか、絞り込んで徹底的にやるのがいいのか。かたちとしてみたいというのは、委員みんなの気持ちである。
- 来年の提案だが、毎年行っている視察で小菅から四ツ木、新小岩まで現地を歩いてみて、生きた意見を交わしてみたらどうか。隅から隅まで知っている人は意外と少ないので、いいアクションプランができるのではないかな。
- 前回私が提案したのはそういうことである。上記の委員の意見に賛成で、行政と委員が歩いて意見をまとめ、ニーズが高ければそれを表として集めていったらどうか。
- 代表者会議もそうだが、われわれが歩いて意見を述べればつながっていく。歩くのは必要だと思う。
- 今西川委員が言ったように、新しい委員の方がそこからスタートして、いろいろな意見を出してやったほうが実があるのではないかな。
- どこかいいところを見に行くより、地区とテーマを決めて、委員全員が見て意見を言い、まとめていくことは重要だと思う。
- 第 8 期の方は 5 月に歩いて見ていただいて、ご意見を出してもらおう。そこから始めると、非常にいい 8 期になると思う。
- 歩いていくのは非常にいいことだしぜひやってみたいが、基本的には荒川を考える協議会で将来像計画ができています。われわれがいろいろなことを実行に結び付けるには、その計画にある程度沿ったものを出さないと難しいだろう。全体像と地区計画を照らし合わせ、歩いてみて、将来像計画とどこに差があるのか、将来像計画からだいぶ遅れている、ではどうするかというふうに出していったほうがいいのではないかな。
- その部分は荒川総合計画 2010 ではなくても、いま重要なのは葛飾区の地区計画をつくる段階である。そのとき西川委員の提案のようなかたちでつくっていく。そうなれば、地区計画も荒川総合計画 2010 とリンクしてつくらざるをえない。
- それには、歩いて見ることはいいことである。ぜひやってみたい。
- 屋代委員が言ったように、新しい人が入るので、将来像計画をしながら、自分の意見を出すことは大切であり、勉強になる。
- 資料 3 を見るとかなり大きな問題が入っているため、その中から選んだほうがいいのではないかな。

3) 第 32 回荒川の将来を考える協議会報告

荒川下流河川事務所より、第 32 回荒川の将来を考える協議会について、以下の報告がありました。

- 1 月 18 日に第 32 回荒川の将来を考える協議会が開催された。今回は墨田区が幹事となり、

墨田区長からの発表もあり、そのほかにも洪水から 100 年の広報展開や荒川市民マラソンの名称変更、ホームレス調査等について報告があった。代表者会議で提言いただいた内容についても話し合われ、提言を受け、今後自然地管理・運営の計画を作成していくため、検討会を設置することとなった。検討会のメンバーは、学識経験者や NPO、地域住民で構成される予定で、墨田区と足立区をモデル地区に指定することで了承を得た。

<主な質問・意見等> (○：質問・意見、●：質問に対する回答)

- 代表者会議に 1 年半出席させていただいたが、来年度からは別の方に出席していただきたい。なるべくいろいろな方が出席し発言するほうが、葛飾区の全体の総意に近くなっていくだろう。出席できないわけではないが、どんどん私個人の意見になってしまうため、それを避けるために、どなたかに代わっていただければと考えている。
- どなたかやっていただけないか。
- 今日で第 7 期が最終回のため、できれば第 8 期の委員を入れた中で決めていただきたい。5 月に第 8 期の第 1 回目が行われるので、そこで決めていただきたい。

4) 第 5 回、6 回荒川市民代表者会議報告

- 葛飾区は、中川水門と綾瀬水門とで流れが強いところがあり、非常に危険である。下流域では高速道路の下に石を入れていただき、車いすで歩けるようになったため、人が来るようになった。さらに下流域は、中川がぶつかったところは一部でワンドになっている。アクセスが悪いため人があまり来ないことから、バードウォッチングが行われることが多い。自然護岸なのでほとんど利用がない。以上のことを述べた。
- 現在、代表者会議がどういう状況かを補足させていただきたい。引き続き、水際の利用や管理について話し合いが持たれている。次回は 6 月 10 日金曜日に開催され、引き続き水際について議論していく話になっている。前回、前々回と全体的な話も出たが、そろそろ具体的な場所に絞って、事例を聞いて話をする事になり、次回は北区子どもの水際の活動を事例として、皆さんで学びながら話し合いをしていく予定である。

<主な質問・意見等> (○：質問・意見、●：質問に対する回答)

- 自然地管理でお聞きしたい。国土交通省の江戸川河川事務所では花粉症でずいぶん困っている。荒川河川事務所ではブタクサなどの影響はあるのか。
- オオブタクサよりネズミホソムギというイネ科の花粉症が問題になっており、江戸川河川事務所では対応している。荒川下流でもお電話をいただくと刈っていると聞いているが、具体的にどう対応しているかは詳しく把握していない。草刈りをしていくことが一つの対策だが、年 2 回の草刈りでどういうふうにやっていくかは頭を悩ます問題である。
- 花粉が発生しないうちに、どんどん刈り取るのがいいのではないか。
- こまめに刈ればいいが、面積も多く、回数もそんなに多くできない。
- 花粉症というとスギ花粉と思うが、土手に行くと涙がぼろぼろ出る。
- 春に起こるのがイネ科の花粉症である。
- 江戸川河川事務所では本が出ている。荒川のほうはどうなのかと思ってお聞きした。
- これは全国的な問題が出ており、事業仕分けで維持管理費の費用が大幅に削減された。それを受け、堤防も芝刈りが年 2 回までしかできない。これまでは年 4 回刈っていたため、時期を狙ってやるようにしているが、以前より草が伸びてしまう。全国的にそういう傾向があり、同様の意見が出ている。われわれとしても、現場の意見を上部機関に伝えながら、何かしらの対策を継続的に考えていきたい。
- 出入りの業者が草を刈っているが、時期を考えてやっているのか。
- 芝刈りの時期にはかなり気を使っており、市区でも広報紙に芝刈りの状況を出していただいている。

情報提供

事務局より、以下の情報提供がありました。

■葛飾区より

1) 第8回区民会議委員募集について

○来年度から第8期ということで、新規委員の募集を「広報かつしか」の4月5日号で新規の募集をしていきたい。第7期に参加いただいている委員の皆様は、引き続き参加していただけるかどうかというアンケートをさせていただきたい。

<主な質問・意見等> (○：質問・意見、●：質問に対する回答)

○委員は、全体で何名いるのか。

●区民の委員さんが16名いる。規約上は委員20名と決まっているので、あと4人くらいは募集していきたい。

■黒川委員より

1) 荒川堤防夜間芝焼きについて

○2月5日に荒川堤防の芝焼きが行われる。「人を集めてほしい」ということなので、ノルディックウォーキングのメンバーと町会長に声をかけたら、防災部会が練習したいという申し出があった。300人くらいの豚汁の配布もあるので、ぜひ参加していただきたい。

<主な質問・意見等> (○：質問・意見、●：質問に対する回答)

○堀切にたくさんラーメン屋があるので、B級グルメのラーメン大会にしたらどうか。

○芝焼きやたこ揚げ大会などのイベントは、だれが発案してどういう組織で動いているのか。

○たこ揚げ大会に関しては私たちは知らない。

○堀切には、黒川議長がやっているように花を守る何とか会などがある。いろいろな組織がリンクしながら、荒川でいろんなことをされている。そのやり方を一度見てみたいと思う。

○ずっとやってきた結果である。菖蒲園は20分程度で見終わってしまうため、河川敷に第2菖蒲園をつくって歩いていただき、商店街のうるおいにしてもらいたいという発想である。

○町会が問題である。

○まちづくり懇談会の長の人と一緒に話を持っていけば、要望が区や国に上げることができる。それが筋道で、結果は10~20年先に出るものだ。

○今、ボランティアみたいな人が土手沿いにスイセンとタチアオイを植えている。あれくらい的情熱があればできるのかもしれない。

○好きな人だけでやっている。大変だという人はやめてもらっている。

○黒川さんみたいな方がいないと難しい。特に四ツ木は町会同士が小さいし、商店街とのリンクがない。なかなか厳しいだろう。

○リンクがないというが、商店街の人がほとんどである。

○商店街の人は、口を出し、お金を出し、心配する。商店街の人は、地域の人に言われるとお金を出さなければならないと思っている。それをうまく利用しなければいけない。

○半田さんをお願いしたほうがいいのかもしれないが、先ほど西川委員から発言があった協議会の役員の問題だが、協議会代表者は、西川委員、町田委員のような精通した人でないといけないだろう。だれでもいいわけではない。従来どおり、西川委員、町田委員をお願いしたほうがいいのではないかと。

■荒川下流河川事務所より

1) 大規模地震時における荒川の活用訓練について

○震災時の荒川をどう使っていくかという内容で、東京都と埼玉県、沿川2市7区、消防署、警察、自衛隊、荒川河川事務所の事務担当者が集まり、図上で訓練をした。話し合いだけでなく、震災時にはどういうことが起こるのか、想定されることについてカードに記載し、意思統一しながら議論していく訓練をした。

<主な質問・意見等> (○：質問・意見、●：質問に対する回答)

○菖蒲水門の中に備蓄倉庫は置いてあるのか。

○巻き上げ機室とか、あとは倉庫となっている。

○あの倉庫に何か入っているのか。震災のときに一番困るのが女性のトイレである。船着き場もトイレもあるが、いざ何百人何千人も来たとき、一番困るのは女性のトイレである。あそこに備蓄のトイレを置いていただいたらいいと思う。

○葛飾区でしかできないと思うが、小水力発電というものがある。中川と綾瀬川の水門にもすごい水量があるので、発電力として利用できないか。

○一つだけ提案させていただきたい。每期、その期の最後に懇親会をしていたが、今回は出席者も少ないことから見合わせていただいた。できれば第8期第1回が終わったあとに懇親会を開催させていただければと思っている。オッケーであれば、第1回の出欠確認時に懇親会の参加についても確認させていただきたい。

次回の会議（第8期 第1回）は
平成23年 月 日（ ）の開催予定です。

連絡先：
荒川を考える葛飾区民会議事務局
TEL：03-5654-8372